

選定委員のコメント



帝京大学経済学部 准教授
五艘 みどり氏

移住やインバウンドで農村が注目されるなか、ツーリズムは地域を知る最良の方法です。人口減少や高齢化で農村の活力を生むのは難しいと言いますが、皆様を見たらそんなことはありません。新たなアイデアで、切磋琢磨しながら地域を盛り上げる皆様は、他地域の方々をも勇気づける存在です。これからも農村ツーリズムのロールモデルとして頑張ってください、食や水といった日本の源を生み出す農村を守っていただきたいと思います。



EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 パートナー
平林 知高氏

日本の古き良き魅力が詰まった農山漁村は、未来へ引き継がなければいけない日本の資産です。こうした資源を単に体験してもらうだけでなく、地域に住まわれている方々との交流や追加情報により、その価値が高まります。そして、体験者には「自分ごと化」してもらい、自身の成長やこの価値をどう次につなげていくか、こうした意識を持ってもらうことも大切です。皆さまの取組が農山漁村の再定義につながり、本当の豊かさとは何かを考える体験につながると信じています。



株式会社 JTB 総合研究所 主席研究員
(一社) ジャパン・サステナブル・ツーリズム・イニシアティブ (JSTi) 常務理事事務局長
熊田 純一

サステナブルツーリズムの進め方は大きく2つあると考えています。一つは地域の人々が大切に育んできた自然や有形無形の文化を守り・育む循環を創り出すこと、一つは、未知の地域や楽しみ方に光を当て、新たな感動を創り出すことです。それぞれの取り組みには、守り・育む循環と感動を創り出す素敵な要素が散りばめられていました。日本の大切な産業である農林水産業は、観光と大変親和性のある産業です。農泊が世界に羽ばたくよう日本サステナブルツーリズムイニシアティブとしても心から応援をしております。

用語集

本書で出てきた用語の一部をご紹介します。

ヴィーガン	肉・魚・卵・乳製品など、動物性の食品を食べない菜食主義者。
クラウドファンディング	インターネット上で不特定多数の人々から、寄付や購入などにより資金を集める手法。
持続可能な観光 (サステナブル・ツーリズム)	訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光。 ※国連世界観光機関 (UNTourism) 駐日事務所 Web サイト (https://unwto-ap.org/why/tourism-definition/) より引用
農村 RMO (農村型地域運営組織)	複数の集落の機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織 ※農林水産省 Web サイト (https://www.maff.go.jp/j/nousin/nrmo/index.html) より引用
DAO (分散型自立組織)	管理者や所有者がおらず、参加者同士で自律的に運営するフラットな組織。
DMO (観光地域づくり法人)	地域経営の視点に立って、官民で連携しながら、観光地のマーケティングやマネジメントを行い、観光関連事業者・住民を支援する法人。
GSTC (国際持続可能な観光協議会)	持続可能な観光に関する基準づくり・第三者認証機関の審査・人材育成を行う非営利団体。地域向けの基準「GSTC 観光地向けクライテリア」をもとに JSTS-D が作られた。

参考資料

農泊についてもっと知りたい方や、農泊に取り組んでいる方に向けて、参考となる情報をご紹介します。

● 農泊についてもっと知りたい

**農泊総合情報プラットフォーム FARM STAY japan****(一社) 日本ファームステイ協会**

テーマや特徴に応じて、全国の農泊体験や農泊協議会に登録された施設を探せる、農泊専門のプラットフォーム。宿泊施設や体験のページには予約サイトへのリンクがあり、すぐに予約ができます。

[URL : https://farmstay-japan.jp/](https://farmstay-japan.jp/)



**Countryside Stay Japan****株式会社ぐるなび**

訪日外国人を対象とした、英語と中国語(繁体字)による農泊の紹介サイト。全国の農泊地域の風景や食、体験などを紹介する動画も豊富に掲載。

[URL : https://countrysidestays-japan.com/](https://countrysidestays-japan.com/)(英語) <https://countrysidestays-japan.com/zh-tw/>(繁体字)



**BUZZMAFF ばずまふ YouTube チャンネル****農林水産省**

農林水産省職員による、我が国の農林水産物や農山漁村の良さを発信する動画チャンネル。農泊の体験動画も多数掲載中。

[URL : https://www.youtube.com/@BUZZMAFF/search?query=農泊](https://www.youtube.com/@BUZZMAFF/search?query=農泊)



**農泊地域の一覧・ガイドブック等****農林水産省 (各地方農政局)**

地方ごとの農泊地域の概要や魅力を発信するWebサイト、ガイドブック等

**農泊地域の一覧****ガイドブック****ウェブサイト****動画****インスタグラム**



 北海道	 東北	 関東	 北陸	 東海
 近畿	 中国四国	 九州	 沖縄	
 東海	 近畿	 中国四国		
 北陸				
 九州				
 九州				

*PDF画面にて各色のアイコンよりリンクを貼ってあります。 *北海道は北海道庁、沖縄は内閣府沖縄総合事務局のWebサイトです。
*ガイドブック等は、九州農政局インスタグラムを除き、それぞれの事業実施主体となった企業が制作しています。

■ 農泊に取り組んでみたい (地域の方向け)

**「農泊」の推進について****農林水産省**

農泊の概要から支援制度の紹介、関連資料まで様々な情報が掲載。

[URL : https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakusuishin/nouhaku_top.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/nouhakusuishin/nouhaku_top.html)



**農山漁村の所得向上・活性化のための 農泊手引き****株式会社百戦錬磨**

はじめて農泊地域づくりに取り組む方から、取組のレベルアップを目指す方まで、ビジネス化に向けて幅広い課題に対応したノウハウ・事例を紹介

[URL : https://www.hyakuren.org/202404010_news01/](https://www.hyakuren.org/202404010_news01/)



■ 農泊を通して持続可能な地域づくりに取り組みたい (地域の方向け)

**日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)****国土交通省観光庁**

国際基準に沿って、国内の自治体・DMO等が持続可能な観光地をマネジメントするために開発された指標。地域の現状分析や目標・課題の共有、地域外へのプロモーション等に活用できる。

[URL : https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/jizoku_kankochi/jizokukano_taisei/torikumi/jsts-d.html](https://www.mlit.go.jp/kankocho/seisaku_seido/kihonkeikaku/jizoku_kankochi/jizokukano_taisei/torikumi/jsts-d.html)



**観光を活用した持続可能な地域経営の手引き****一般財団法人運輸総合研究所 国連世界観光機関駐日事務所**

地域の資源を活用して、住民の生活の質(QOL)向上にもつながる持続可能な観光地域づくりのステップ・事例などを紹介。章ごとの要点をまとめたスライド形式の「はやわかり版」も公開。

[URL : https://unwto-ap.org/wp-content/uploads/2022/04/220322kanko_tebiki_hayawakari.pdf](https://unwto-ap.org/wp-content/uploads/2022/04/220322kanko_tebiki_hayawakari.pdf)(はやわかり)
[URL : https://unwto-ap.org/wp-content/uploads/2022/04/220322kanko_tebiki.pdf](https://unwto-ap.org/wp-content/uploads/2022/04/220322kanko_tebiki.pdf)(全体版)



農泊モデル地域ロードマップ

地域名 ○○地域農泊推進協議会

作成日 記入例

目指す姿・地域における農泊の位置づけ

これまでの取組

農泊の取組	● 教育旅行による体験民宿を地区内35軒で取り組んできた。首都圏や海外などから学生が訪れていたが、高齢化による軒数の減少や、物価高等による影響で事業継続が困難になっている。
農山漁村への貢献地域	● 地域の農産物を使った郷土料理作りなどを通して、道の駅に出荷するような高齢の小規模農家の副収入になっていた。 ● 交流人口によって、大人になっても地域を訪れる方が着実に増えている。

地域の現状分析

項目	ターゲット・コンセプト	地域資源の活用	商品化・販売	マーケティング・プロモーション	農林漁業との連携・貢献	組織体制・人材育成
現状	● 教育旅行の農家民宿が中心で、首都圏や海外の中高生が多い。 ● 地域の人との交流・ふれあいを大切にしている。	● 地域食材を使った郷土料理体験が好評を得ている。	● 教育旅行で訪れた学生向けの体験メニューを40ほど開発しており、学校や旅行会社のニーズに応えている。	● 現状は、県観光協会からの紹介が多く、自ら営業をしていない。 ● SNSはあるが、フォローが伸び悩み、更新できていない。	● 小規模農家が自分の畑でとれた野菜を提供したり、体験の場として活用しているが、収益化には至っていない。	● 農家民宿35軒があるが、高齢化が進み後継者がいない。 ● コーディネーターが1人だけで、対応力が不足している。
中長期目標	● 交流から関係人口に広げたい ● タビァト消費につなげる仕組みづくり	● タビァト消費につなげる仕組みづくり	● 企業のニーズに応える新たなプログラムを開発・提供する。 ● サービス提供ではなく、地域の課題解決に参加してもらう。	● 企業との関わりを長期的に持てるよう、地域のファンを増やす。 ● 自ら営業活動を行い、新規の顧客を獲得する。	● 農家の課題解決に貢献する農泊のあり方を作る。	● 子ども世代が農家民宿を継ぎたいと思えるようにする。 ● コーディネーターを育成する。
達成手段	● 旅行会社との商談や、企業の人事・CSR担当者への営業活動により、法人研修の受入に取り組む。	● 農家民宿だけでなく、地域の加工業者との視察や、企業担当者への聞き取りにより新たなプログラムを開発する。	● タリフを整理し、商談会に出展し旅行会社とつながりを持つ。 ● 地域の日常をSNS投稿し、訪問者にフォローを促す。	● 農繁期の手伝い等を受け入れられるよう、農協と協議する。 ● 農家の日常体験を試験的に提供する。	● 若手との意見交換を行う。 ● 地域の観光協会と連携し、デジタル活用も組み合わせてコーディネートを実施する。	

今年度の取組

いつ	何をするか	中長期の取組	1年後	2年後	3年後
10月	・企業研修の先進地域を視察する	法人研修プログラムの開発・販売	新たなプログラムの提供	プログラムの磨き上げ、農業支援につなげるあり方を検討	
10月	・アグリワーケーション等の情報収集、旅行会社ヒアリング	タビァト消費につなげる仕組みづくり	加工業者との協議	参加企業からの紹介による営業活動	
11月	・既存プログラムをタリフに落とし込み、有識者に見てもらう	農業の課題解決に貢献するプログラムの開発・販売	新たなお土産品の開発	ふるさと納税等との連携をはかる	
12月	・農協にヒアリングを行い、旅行者が手伝える作業を検討		アグリワーケーションワーケー等の導入を検討		
12月	・企業の人事・CSR担当者にヒアリングを行い、ニーズを検討		市の移住定住課と連携し、お試し移住と農泊の連携を検討		
1月	・WEBサイトのリニューアルを行う				
随時	・SNSによる情報発信の専門家によるアドバイスをもらう	農家民宿の事業継承に向けた取組	若い農家や移住者、農村 RMO等との意見交換（継続）		
2月	・新たなプログラムを試験的に実施する		農家民宿の継続意向を確認	新たな担い手とのマッチング	

コメント

農泊モデル地域ロードマップ

地域名

作成日

目指す姿・地域における農泊の位置づけ

これまでの取組

農泊の取組	
農山漁村への貢献地域	

地域の現状分析

項目	ターゲット・コンセプト	地域資源の活用	商品化・販売	マーケティング・プロモーション	農林漁業との連携・貢献	組織体制・人材育成
現状						
中長期目標						
達成手段						

今年度の取組

いつ	何をするか	中長期の取組	1年後	2年後	3年後
		取組事項			

コメント

農泊モデル地域ロードマップ記入シート

作成日

目標設定
